

2016. 9. 15 提出

島の活性化のために

歯学部歯学科 1 年 4316100432 的場梨花

今回の与論島集中講義を通していちばんに感じたことは、与論島は観光の町ということだ。きれいな海を売りにして多くの観光客を引き込んでいる。バブル期のピークからは落ち込んでいるものの、与論島総人口 5350 人に対し年間 60000 人以上の観光客が訪れている。与論島の活性化のためには、この観光業をさらに強くしていくべきだと考えた。

まずは、与論島に行くための交通の便を良くすることが必要である。今回、私たちはフェリーで 20 時間かけて移動した。フェリーだと鹿児島～与論島の飛行機に比べ、約半分の費用で済む。しかしフェリーの 2 等室で雑魚寝状態で 20 時間過ごすくらいなら倍の値段でも短時間で着く飛行機で行きたいというのが正直な感想だ。また抜港が相次ぐため急に帰れなくなるといったトラブルも多い。このような点から観光客の交通手段をフェリーから飛行機へシフトしていくべきだと思う。飛行機の価格を下げ、東京、大阪などの主要都市とつなぐ便を増やしていくといいだろう。飛行機で気軽に行けるとなると観光客はさらに増加すると考える。飛行機には短時間で行けるという利点があるがフェリーには海を見ながらゆっくり有意義に行けるという利点もある。フェリーは時間に余裕のある高齢者層や、長期旅行をする観光客向けに展開するべきだと思う。鹿児島から 20 時間を快適に過ごしてもらうために船内を改装する必要があるだろう。全室個室にしたり、図書コーナーを設けたり、DVD を流したりと工夫することで快適な船旅を提供できる。飛行機とフェリーの利便さと質を向上させることで与論島に行ってみようと思う人が増えると思う。3 泊 4 日与論島で過ごした中で感じたことは、居酒屋以外で夕食を食べるお店が少ないということだ。居酒屋に入ると地元の方々と交流するきっかけができたり、生の与論献奉を体験したりと他の観光地では経験できないようなことができた。人との出会いの場として地元の人たちに居酒屋が大切にされているということを実感した。しかし、お酒を飲まずに夕食をとろうとお店を探すとお店の数が少ないことに気づいた。家族連れやお酒を飲まない人でも気軽に入れる飲食店がもっとあった方がいいと思った。もずくそばやパイヤ漬け、モリンガ麺など与論島の郷土料理を提供したらさらに良いと思う。奄美大島の鶏飯のように与論島のもずくそばを全国に広めていくことも与論島を知ってもらうきっかけになる。近年は情報源の大半がインターネット上のウェブサイトや、ツイッターやフェイスブックなどの SNS となっている。観光業の発展のためにはこれらの媒体を利用して情報を発信していくことが鍵となる。百合が浜や赤崎鍾乳洞などきれいな風景の写真を投稿して興味をもってもらう方法の他にも、サトウキビ畑や漁協の競り、地元の家庭料理など何気ない風景をブログ形式で投稿することで与論島の生活を知ってもらうことも観光業の発展につながると思う。

ここまで観光について述べてきたが、観光だけに依存することなく活性化していくことも必要だと思う。与論島ではサトウキビを使った黒糖、ドラゴンロール、里芋ロール、黒糖ロール、パイヤ漬け、もずくそば、黒糖焼酎など他にはない商品が数多くある。これらの特産物を生かして、ふるさと納税に力を入れると与論島の地域活性化につながると思う。ふるさと納税は近年注目され、商品が欲しいという理由で納税する市町村を選ぶ人

は数多くいる。ふるさと納税を発展させるためには、まずできるだけ多くの特産品を準備することが必要だ。パンフレットにさまざまな種類の特産品が掲載されていると、次はこの商品が欲しいからまた納税しようというリピーターも増える。ふるさと納税はパンフレットとホームページを改良したことで税収入が大幅に増加したという市町村があるように、どれだけ良いパンフレットを作るかが大切となる。サトウキビの栽培の様子やもずくそばを作る様子など地元の方々がひとつひとつの作業を丁寧にしている写真を載せることで与論島の特産品に興味をもってもらいきっかけになるだろう。ふるさと納税は、特産品を生産する業者が活性化するだけでなく、得た税収入で地域のインフラを整備したり、町のイベントを開催したりと新たに事業を展開することもできる。私自身、もう一度与論島のパイヤ漬を食べたいと思うことがある。与論島に訪れたことがある人々がまた食べたいと思ったときふるさと納税を利用して商品が入手できるということは利点になるだろう。ふるさと納税という方法を活用することで農林水産業、観光業ともに活性化することができる。観光業に依存することなく与論島が活性化するためには最適な方法だと思う。

最後に歯学部在籍する私にとって与論島には歯科医院が一つしかないという事実は衝撃だった。「夏休みは歯の治療が子ども優先になるからなかなか治療できない」、「予約しようとしたら3ヶ月待ちだった」、「歯の治療をするために隣の沖永良部島まで行く人も多い」という声を聞いて驚いた。歯科医院はコンビニの数より多いと言われている。そのため歯医者が必要とされている与論島の人々の声を聞くと素直に嬉しかった。将来、与論島で歯医者として働いてみたいと思った。与論島の人々の声を聞いて、与論島で歯科医院を開きたいと思う人はたくさんいると思う。しかし、本州から約600キロも離れた小さい島で開業しようにも、どうすればいいのか、やっていけるのか不安になる。与論島の空いている建物を低資金で譲ってもらえるなどさまざまなバックアップ体制があれば、与論島に移住して歯科医として働きたいという人が出てくると思う。歯科医同様に、産婦人科医も不足しているため出産を島外ですることが当たり前になっている。産婦人科医院を開業したい人のためのバックアップ体制もあると与論島にきてもらいやすくなるだろう。その結果、与論島が住みよい豊かな町としてさらに活性化すると思う。観光だけでなく、移住という選択で与論島にきてもらうことも必要だ。

私が与論島で過ごした4日間、与論島の人々の温かさにたくさん触れることができた。すれ違う人に挨拶すると、畑でサトウキビや島バナナ、グアバをいただいた。夕食をお店で食べていると、地元の方々が話しかけてくださり、島のことをいろいろ教えてくださった。地元の方々の優しさ、与論島の雄大な自然に触れて、また与論島にきたいと思った。一度、訪れると与論島の良さがわかる。もっとたくさんの人に与論島にきてもらいたいと思った。与論島の活性化のために微力ではあるが、私も家族や友人に与論島での思い出、与論島の魅力を語っていききたい。